



2016
ニュージーランド研修

スポーツと演劇で 異文化交流

ニュージーランド研修 I に今年は 98 人の江戸川大学生が参加した。学科によって滞在先はわかれ、マス・コミュニケーション学科の 35 名の滞在先は北部のオークランド。

2016 年 8 月 27 日から 9 月 13 日にかけての約 3 週間、ホームステイしながら、現地のマッセイ大学アルバニー校に通った。初めて触れる異文化に戸惑いながらも、英語の授

業と様々なイベントで、他国の人たちとコミュニケーションをすることができた。さらに現地の伝統文化も学ぶことができた。(取材: 石井 蓮 撮影: 日高那佑)



英語でマオリ族の伝統文化を演じて大成功

研修の修了式では、江戸川大学生がホストファミリーへの感謝の気持ちとして英語劇『ロナ、タマヌイ & マラム』を披露した。約 3 週間の研修の間、練習してきたマオリ族の昔話だ。

学生たちは、デレク先生、マリアンヌ先生、ナイシェル先生の指導のもと、それぞれ、数分のナレーションが登場人物を担当する。指導も台詞もすべて英語だ。初めのうちは教師が何を

で、これは男子が担当した。ポイという道具を使った繊細なポイダンスは女子が担当した。英語だけでなく、マオリ族の伝統や文化、歴史まで学ぶことができた。台詞の間違ひなどの小さなハプニングがあったものの、劇もダンスもほとんど完璧な状態に仕上げる事ができ、ホストファミリーたちからは大きな拍手が起った。帰り道で、記者のホストファザーは、「ダンスも劇も素晴らしかったと何度も言ってくれた。

サッカーとバスケの試合で交流を深めた

マッセイ大学アルバニー校の国際学科の学生とのサッカーマッチと、同大学の中国人留学生とのバスケットボールマッチは、ニュージーランド研修の恒例イベントだ。江戸川大学生たちは、出発前からメンバリーやフォーメーションを決めるほど、楽しみにしていた。

マッセイ大学近くのグラウンドで行われたサッカーマッチ。当日は曇り時々雨

とあまり良くない天候だったが、両チームの選手は小雨の降る中でウォーミングアップ。やる気は十分。試合は終始マッセイ大学に押される形となってしまったが、キャプテンの森井将大さんが一得点をあげる活躍を見せるなど最後まであきらめず、前後半 25 分の試合をやりきった。

試合後は、選手同士で握手をしたり、記念写真を撮ったりと和気あいあい。「試合中は荒いプレーもあったりしたが、和やかに終わった」と、森井将大さん。勝敗よりも交流に意義のある体験だった。

